

・12月28日(月)、町職員に向け、仕事納めの町長訓示を庁内放送で行いました。

例年、多くの職員が業務に支障のない範囲で一堂に会し、町長の私からこの一年を振り返って年末の挨拶をするところですが、新型コロナウイルス感染予防対策として、庁内放送にてアナウンスしました。令和2年は新型コロナウイルス感染拡大により、誰もが予想し得ない一年となり、職員もウイルスという見えない敵と戦い、感染対策に多くの時間を費やし、その脅威に怯まず、組織の力を結集して立ち向かい、町内の被害を最小限にとどめることができたことに感謝の気持ちを伝えました。町民の皆様におかれましても、長期間にわたって様々な制限や我慢をお願いした一年でありましたが、ご理解、ご協力を賜りましたことに心から感謝申し上げます。よいお年をお迎えください。



・12月28日(月)、清水町成人式実行委員報告会に出席しました。

晴れて成人式を迎えられる新成人代表の実行委員8人が、1月10日にWEB配信することとなった成人式での誓いの言葉に込めた思い、記念品選定、恩師対面などの企画について、町三役に報告していただきました。本来でしたら、町全体で晴れ着姿の新成人の門出を祝う大切な行事を開催する予定でありましたが、新型コロナウイルスの感染拡大が続いており、やむを得ず集会形式の式典開催は中止とし、WEB配信のみの成人式に変更いたしました。町では、未来ある新成人の皆様やご家族、町民の皆様の健康と安全を守ることが、最も優先すべき責務と考え、苦渋の判断をいたしました。何卒、ご理解とご協力の程、お願い申し上げます。



・12月25日(金)、清水町サッカー協会の坪内秀樹会長から、町内のグラウンドの照明設備の改修や芝生化、子供用サッカーゴールの設置などに関する要望書を受け取りました。

現在、サッカー協会では、町内の高校生と小中学生のサッカーを通じた交流を促進するプロジェクトが推進されており、本年11月から沼津商業高校のサッカー部員が指導者として、町内の小中学生を対象にサッカー教室を開催しています。坪内会長は「今後は、サッカーを通じた地域活性化の取り組みをほかのスポーツにも広げていきたい」と意気込みを語られました。町でも、子どもたちが郷土愛や連帯感を育むスポーツによる人づくり、地域づくりをサポートしてまいりたいと存じます。



・12月23日(水)、第2回清水町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進本部会議を開催しました。

今回は、町三役を含む幹部職員が、人口ビジョンの現状分析や将来展望を踏まえ、町の目指すべき将来の方向性を定めた「人口ビジョン・総合戦略」の素案を検討しました。4つの基本目標における5年後の数値目標や重要業績評価指標(KPI)の設定が適切であるか判断していき、いかにして本町が抱える人口上の課題を克服し、地域資源(強み)を活かした好循環な人の流れをつくるか議論しました。今後、本日の結果を踏まえ、来年1月に外部有識者会議に諮り、2月には町民の皆様からのパブリックコメントの募集を行う予定です。



・12月22日(火)、第21回静岡県市町対抗駅伝競走大会町の部優勝のペナント贈呈式が行われました。

静岡陸上競技協会の新谷誠規理事長様をはじめ、静岡放送の榛葉英二代表取締役常務様、静岡新聞社・静岡放送の皆様が来庁され、優勝ペナントを贈呈していただきました。ご同席いただいた朝倉監督から「大会終了直後から、来年の三連覇に向けてすでに始動している」という力強いお言葉をいただきました。主催者である静岡陸上競技協会、静岡新聞社・静岡放送の皆様には、コロナ禍での開催決行にあたり、大変なご苦勞や不安があったこととお察し申し上げます。本日いただいた優勝ペナントやトロフィーなどは、役場1階の住民ホールに展示しておりますので、役場にお越しの際はぜひご覧ください。



・12月22日(火)、渡邊和豊町議会議長とともに、国土交通省沼津河川国道事務所に要望活動を行いました。

近年の局地的豪雨の多発や台風の大型化などの気象変化により、災害が多発・激甚化していることから、町では基盤整備事業において、国からの社会資本整備総合交付金を主要な財源としていますが、希望通りに交付されないことで、財源不足により事業に遅れが生じ、投資効果が表れにくい状況となっております。自主財源の確保が厳しくなる中、事業財源として最重要である当交付金の十分な確保と狩野川流域関係事業の促進を強く要望してまいりました。今後、地元選出の岩井茂樹国土交通副大臣、勝俣孝明衆議院議員への要望活動も予定しております。



・12月21日(月)、第2回清水町総合教育会議を開催しました。

今回は、来年度からの「第2期清水町教育大綱」について意見交換を行いました。教育委員の皆様から「清水町教育の柱」に掲げた「生き合う力」という言葉が理解しにくいのではないか、「教育大綱」は全町民にわかりやすく、注釈がなくても理解できる平易な言葉を使うべきではないかのご指摘や、ICT機器を活用した学びの場や英語教育の充実に関する活発なご意見をいただきました。町長の私と山下教育長から、保護者・地域・学校・行政が子どもの学びを支えるために、すべての大人が子どもを育てる教育を進め、子どもたちは相手の意見を聞き取る力や読み解く力を養い、本年度はコロナ禍で実施できなかったことがたくさんありましたが、平時に戻ったら実現したいことがしっかりとできるよう、今から準備を進めてまいりたいという考えを述べさせていただきました。



・12月20日(日)、手筒花火の放揚及びペットボトルツリーの点灯式に出席しました。

コロナ禍による閉塞感が覆う今こそ、手筒花火と清水中・南中の中学生手作りのペットボトルツリーで、町に笑顔を取り戻そうと、清水町商工会と柿田川煙火保存会の皆様が本イベントを企画し、実現しました。新型コロナウイルスの猛威に負けずに、手筒花火の吹き上げる火柱で厄災収束を祈願し、ペットボトルを再利用したツリーの柔らかい光が柿田川公園を照らしました。この光に込められた新型コロナウイルス感染症の一日でも早い収束への願いが叶うことを祈念し、本イベントにご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

※ペットボトルツリーは、12月26日(土)まで毎日午後5時～8時に点灯します。



・12月17日(木)、清水町国民健康保険事業の運営に関する協議会(海野豊彦会長、加藤久雄会長代行)に、国民健康保険税の賦課限度額の改正について諮問しました。

今回は、本年4月の地方税法施行令の一部改正に則した対応を図るため、これまでと同様に1年遅れで国民健康保険税の賦課限度額を改正することが妥当であると判断し、諮問、審議をお願いすることといたしました。コロナ禍でありますので、引き上げ実施のさらなる延長も考慮いたしましたが、対象者が高額所得者であること、対象人数が少ないこと、また、近隣市町の動向などを踏まえ、お諮りいたしました。ご審議の上、ご答申くださいますようお願い申し上げます。



・12月17日(木)、コミュニティFMとケーブルテレビの収録が行われました。

今回の収録は、新年のご挨拶をさせていただくものですが、町長の私からは、新型コロナウイルスの世界的流行とその対策で追われる一年でありましたが、そのような中でもわが町では、静岡県市町対抗駅伝競走大会町の部で、大会新記録で連覇という町史に残る快挙を成し遂げたニュースが、町の大きな活力となっていることや、来年度スタートする第5次総合計画で「くらしやすさ」に磨きをかけ、より多くの人を惹きつけるまちづくりに邁進する心構えをお話しました。現在は、新型コロナウイルスの影響で様々な制限がありますが、今後もトップセールスの一環として、メディアに限らずあらゆる機会をとらえ町の魅力を発信してまいります。

※ボイスキュー、コーストエフエム、ケーブルテレビは、1月1日(金・祝)からO.A.されます。



・12月16日(水)、定例区長会に出席しました。

今回は、区長の皆様に、本年を振り返り一年間のお礼を申し上げます。2020年も残すところわずか2週間余りとなりましたが、わが町には大きな自然災害はなく胸をなでおろしたところです。しかしながら、年初からの新型コロナウイルス感染症の流行により、町の様々な事業に大きな影響が及んでいる中で、いかなる天災もいつ何時起こるかわからず、改めて災害に強いまちづくり・地域づくりを進めていきたいと考えたところでございます。引き続き、年末年始も徹底した感染症対策を講じ、これまで区長の皆様にご出席いただいております成人式や出初式につきましても、規模を縮小し、ご来賓の臨席を制限した形での開催にご理解をお願いいたしました。



・12月15日(火)、清水町社会教育委員会の皆様との町政懇談会を開催しました。

委員の皆様からの少子化による町立幼稚園や小中学校の統合、地域の防災対策、学校施設の老朽化、ジオパーク再認定への取り組み等、多岐にわたる質問・要望等に回答した後、意見交換を行いました。さらに、社会教育分野での障害者支援や協働のまちづくりに関するご質問をいただき、担当課長から現状をご説明し、町長の私からは、今後に向けた町のビジョンについてお話をさせていただきました。日ごろ様々な場面で、町民の皆様、地域、企業との「協働」の重要性を改めて強く実感しており、これからのまちづくりは、町からの「一方通行」な働きかけではなく、町民の皆様からも新たなご提案やアイデアなどお力を貸していただき、真の意味での「町民参加」のまちづくりをお願いしてまいりたいと存じます。



・12月14日(月)、清水町行政改革推進本部会を開催しました。

本町では、現在、平成28年度から令和2年度までの5年間を計画期間とした第5次清水町行政改革大綱に基づき、行政改革を進めておりますが、計画期間満了後の令和3年度以降は、行政改革大綱を策定せず、第5次清水町総合計画に位置付け推進することを決定しました。本日は、その具体的な取り組み事項を定めた行政改革アクションプランについて、審議を行いました。本部会を構成する課長各位から、長年職員として培ってきた知識と経験を活かした多角的な意見や提案が多数出されました。



・12月12日(土)、令和2年度『税に関する作品』表彰式(主催:清水町納税推進委員会)に出席しました。

毎年11月の「税を考える週間」の取り組みとして、町内小中学生を対象に募集した税に関する優秀作品(習字・ポスター・作文)を表彰しています。本年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、静岡県全体での応募作品数は減ってしまいましたが、本町では411点もの作品の応募があり、いずれも税について関心を持って、しっかりと勉強され甲乙つけがたい作品であったと伺っております。小中学生の素晴らしい作品に触れ、町では、納税者の皆様の負託に応え、健全財政を堅持しながら、さらなる町政運営の発展に全力で取り組む思いを改めて強く感じたところであります。



・12月6日(日)、清水町消防第3分団新ポンプ車お披露目式に出席しました。

当日は、新ポンプ車による放水訓練も披露されました。第3分団の皆様には、令和2年7月豪雨の際には、徳倉地域の土砂災害警戒区域の土砂崩れに備え、対応にご尽力いただき、地域住民の皆様も心強く感じられたことと存じます。近年は災害が激甚化しており、地域の防災体制の中核的存在である消防団の皆様には、地域住民の安全・安心を守る組織として、大きな役割を果たしていただくとともに、町民の皆様からの更なる厚い信頼を得られるよう、今後ともその使命の重大さ、重要さを再認識して活動に当たられることをご期待申し上げます。



・12月5日(土)、第21回県市町対抗駅伝競争大会で、見事、町の部で優勝し、連覇を果たしました。

当日は、スタート直前まで小雨が降る中、コロナ禍で沿道の応援も制限される状況ではありましたが、4区の関美澁さんが首位に立つと、そのまま12区アンカーの船越陸さんまで独走を続け、大会新記録で優勝という偉業を成し遂げました。選手はもちろん、朝倉監督や関係者の皆様は、連覇という大きな期待や重圧を受け、また就学や就職で県外に出た選手もおり、様々な逆境がありましたが、選手の皆様の故郷を思う気持ちは熱く、わが町の誇りをつなぐたすきは、最後まで途切れることなくゴールテープを切ることができました。町中に大きな感動を与えていただき、本当にありがとうございました。





・12月2日(水)、徳倉用水組合の皆様が来庁され、「徳倉用水に関する要望書」をご提出いただきました。この要望書の概要は、「徳倉橋南側堤防改修工事に伴い、現在の第1ポンプ場が事業用地となり、新たな場所に移転することとなったことや、電気料金の高騰のため、助成をお願いしたい」とのことでした。本日いただいたご要望につきましては真摯に受け止め、営農者の皆様の安定した活動支援に努めてまいります。



・12月1日(火)、令和2年第4回清水町議会定例会において教育委員会委員に任命された深澤朱美様(清水町玉川)に辞令交付を行いました。

深澤様は高等学校等で音楽の講師として教育に携わっております。深澤様から「清水町で生まれ育ったので、清水町の学校で児童生徒と関わり合いが持てることを嬉しく思う。辞令を受け、自覚と責任を感じている。今後、教育委員会委員として、勉強をしていきたい。」と抱負を述べられました。これまでの知見を生かし、わが町の教育行政にご協力くださいますようお願い申し上げます。



・12月1日(火)、清水町長沢の榊木村鑄造所様と災害時における物資供給等の協力に関する協定を締結しました。

木村鑄造所様は、発泡スチロールの軽量かつ優れた断熱性に着目し、避難所における発泡スチロール製のパーテーションや床材を開発され、災害時に供給していただけるということで、災害時の更なる安全を確保できることとなり、心から感謝申し上げます。「今後も様々な形で、地元清水町に協力していきたい」と心強いお言葉をいただきました。今後も関係機関との連携を密にし、わが町の安全安心を築いてまいります。

